

年間目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 保健的で安全な環境の中で、園生活の流れや生活の仕方が分かり、自分の身の回りのことをしようとする。 ● 体を十分に動かしているいろいろな動きのある遊びを楽しみ、心地良さを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育教諭や友だちに親しみをもち、友だちとふれあいながら、安心して自分のしたい遊びに取り組む。 ● いろいろな経験をしながら、自分の興味・関心・思いを言葉で相手に伝えるなど、自分なりの方法で表現する。 ● 遊びや生活の中で、簡単な決まりや約束事があることを知って、守ろうとする
-------------	---	---

子どもの姿と育てたい側面	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい生活に喜んで参加する子もいるが、緊張や不安を抱き、泣く子ども、保護者と離れにくい子ども、不安な表情の子もなどがいる。保育教諭に温かく受け入れられることで安心して徐々に活動範囲を広げられるようにしていく。 ● 園生活の流れが分かり、園生活のリズムに次第に慣れていき、自分から動き始めて遊んだり、身の回りのことを自分で少しずつできるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 初めは一人で遊ぶことが多いが、次第にそばにいる友だちと同じ動きをしたり友だちの遊びにも関心をもったりする。他児と一緒に遊ぶ楽しさを保育教諭が仲立ちとなって知らせていく。 ● 保育教諭や友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育教諭に親しみ、安定するにつれて、新しい活動にも自分から取り組み、遊びの場（行動範囲）を広げていく。 ● 園の遊具や玩具に興味を示し、友だちとふれあいながら、自分の好きな遊びに楽しんで取り組めるようになっていく。 ● 様々なことに好奇心をもつようになり、自分でいろいろ試してみる姿が見られるので、生活や遊びの中で見たり触れたり試したりする喜びを味わえるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人ひとりが自己主張するようになり、物の取り合いなど、友だちとトラブルになることが多くなっていく。そうした機会を通して友だちの気持ちに気づき、様々な関わり方があることを知らせていく。 	
期	I 期（4～5月）		II 期（6～8月）		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ● 喜んで登園し、保育教諭や友だちに親しみをもち、安定した気持ちの中で、好きな遊びを楽しむ。 ● 園生活の流れを知り、園の生活リズムに慣れる。 ● 園の遊具や玩具に興味をもち、自分から遊ぼうとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 園での生活の仕方が分かり、簡単な身の回りの始末を自分でしようとする。 ● 遊びや生活を通して約束や決まりがあることを知っていく。 ● 保育教諭や友だちと一緒に生活することに慣れ、安心して活動できるようになる。 		
指導内容の視点	心と体の健康 人との関わり 環境との関わり 言葉の育ち 表現する力	<ul style="list-style-type: none"> ● 園における食事、排泄、手洗い・うがい、着脱、所持品の始末などの基本的な生活の仕方を知り、保育教諭に手伝ってもらいながらも自分でしようとする。 ● 弁当や給食、おやつなどを、友だちや保育教諭と楽しく食べられるようになる。 ● 安定した雰囲気の中で一人ひとりに応じた休息を十分にとる。 ● 安全な遊具の使い方を知り、室内や戸外で安心して遊具や玩具を使って遊ぶ。 ● 戸外で体を十分に動かして遊ぶ。 ● 自分のクラスが分かり、担任や友だちを覚え、親しみをもちて生活や遊びをする。 ● 保育教諭との関わりの中で気持ち良く挨拶をしたり、親しみをもちてふれあったりする。 ● 自分の持ち物をしまっておく場所が分かり、簡単な身の回りの始末を保育教諭に手伝ってもらいながらも自分でしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 飼育物や草花を見たり、触れたりしながら興味や関心をもつ。 ● 様々な食材を見たり触れたり、栽培したりすることで、興味・関心をもつ。 ● 土、砂、泥などで遊ぶことを通して、感触を味わう。 ● 積み木、ブロック、ままごとなどに興味をもち、触れて楽しんで遊ぶ。 ● 誕生会や身体測定、避難訓練などの行事に3歳児りの取り組み方で参加する。 ● したいこと、してほしいことを保育教諭に動作や言葉で伝えようとする。 ● みんなで一緒に保育教諭の話や絵本などを見たり、聞いたりする。 ● みんなと一緒に、知っている歌や手遊びをしたり、体を動かして遊んだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食事、排泄、手洗い・うがい、着脱、所持品の始末など、一人ですようとしたり、できないことを保育教諭に伝えながら自分でしようとしてたりする。 ● みんなと一緒に食事をするを楽しみ、食事の仕方を身に付けていく。 ● 追いかけっこや固定遊具の遊びなど、保育教諭や友だちと関わって遊ぶ楽しさを味わう。 ● 自分の好きな遊びに喜んで取り組む。 ● 物の取り合いなど友達とのトラブルの中で、保育教諭の仲立ちで自分の思いを表現しようとしてたり、相手の気持ちを知ったりする。 ● 気の合う友だちとふれあって遊ぶことを楽しむ。 ● 友だちのすることを見たり、まねたりしながら、一緒に遊ぼうとする。 ● 身近な教材や用具などの使い方を知り、興味をもって使おうとする。 ● 集団で過ごすことで、簡単な決まりや約束を守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 梅雨時の自然の変化に興味や関心をもつ。 ● 夏野菜の生長の様子に気づき、収穫を楽しみにする。 ● 自分の経験したことや思いを、保育教諭や友だちに伝えようとする。 ● 絵本や紙芝居などに親しみ、イメージを広げる。 ● 水遊び、砂遊び、泥遊び、プール遊びなど、解放感が味わえる遊びを十分に楽しむ。 ● いろいろなものになったり表現したりして遊ぶことを楽しむ。 ● 音楽に合わせて体をリズムカルに動かしたり、簡単な身体表現をしたりして楽しむ。 ● 新しい歌を覚えて友だちと一緒にうたったり、いろいろな音のする物に触れたりする。 ● フィンガーペインティングや絵の具などで伸び伸びと描く楽しさを味わう。
環境構成の要点	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活の仕方は一人ひとりに応じて援助していき、自分でしようとする気持ちを育てる。 ● 靴箱、ロッカーなどにその子のマークを付け、食事、排泄、持ち物の整理などは繰り返し行ない、安心して身につけられるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 保育教諭が戸外の遊具や砂場を安全で清潔に環境を整備し、子どもたちが伸び伸びと使えるようにする。 ● 室内の遊び場所は、家庭的な雰囲気をつくり、安心して好きな遊びができるように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 遊具や用具の種類や形に合わせて、箱や棚を用意し、分類や整理しやすいようにマークを付け、片付けやすい環境をつくる。 ● 子どもの興味を捉えて楽しめるような材料や用具、時間や場、遊具の数を意用する。 ● 着替えや手洗いなどは自分からしたくなるように場を整え、手順が分かるように絵やカードなどを使い、示しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 気温に合わせて水遊びやプール遊びができるように、場や遊具などを整えて使えるようにしておく。 ● 一人ひとりの健康状態に留意し、快適な環境のもとで生活できるようにする。 ● 友だちと同じものを持ったり身につけたりできるように、遊具などの数や置き場などに配慮する。
☆保育者の関わり・援助（養護含む）	<ul style="list-style-type: none"> ★ 一人ひとりを温かく受け入れ、どの子どもも安心感をもてるように心掛けて、小さなサインも見逃さないように配慮する。 		<ul style="list-style-type: none"> ★ 好きな遊びを見つけられるように、一緒に遊んだり、興味をもてるような誘い掛けをしたりする。 ★ 新しい環境の中で活動範囲が広がってくるので安全に過ごせるように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 子どもの言葉や表情から思いを受け止めたり、共感したりしながら関わっていく。 ★ 一人ひとりのペースを大切に、「おもしろそう」「やってみよう」という気持ちもてるような雰囲気心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 物の取り合いなどのトラブルが出てくるので、互いの気持ちを受け止めたり、代弁したりして、状況に応じて対応していく。 ★ 書きを考慮し、適度な水分補給と、休息を十分にとれるような配慮をする。
家庭や地域との連携（保育園・幼稚園・小学校との連携も含む）	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもを初めて集団生活に入れる保護者の思いや不安な気持ちを受け止め、子育ての大切さや喜びなどに共感し、信頼関係を築いていく。 ● 保護者に安心してもらえるよう、園での様子を話したり、家庭の様子を聞いたりする機会をもつ。また、クラス便りやホームページなどで発信することを通して、園での姿を具体的に伝えていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 入園当初の健康状態を把握し、保護者との連絡を密にしておく。 ● 引き渡し訓練について説明し、連絡先の確認や、緊急時の引き取り方法などを、具体的に確認しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 園生活の中で、自分の力で努力している姿を具体的に伝え、家庭でも自分でできたことは時間的な余裕をもって行なえるようにしていく。 ● 一人ひとりの健康状態を、健康チェックシートや連絡帳で知らせ合い、家庭との連携を密にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 体の清潔や、着脱しやすい衣服の準備などに配慮しながら、夏の健康に関心をもてるよう連絡を深める。 ● 夏の生活の仕方についてクラスだよりなどで知らせ、食事・睡眠・体調管理などの問題や、直接体験の大切さを伝えていく。
園生活の自立に向けての配慮点	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい環境の中で一人ひとりが自分なりのペースで少しずつ安心して過ごせるように、状況に応じて配慮していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 困ったことや分からないことは、保育教諭に聞いたり手伝ってもらったりするようにし、保育教諭が心のよりどころになるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「自分で」という意欲的な姿が遊びや生活の様々な場面で見られるようになってきたことを受け止め、生活習慣が身につく、一人ひとりが自信をもって行動したり話したりするように援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人ひとりの自分でしようとする気持ちを大切に、遊んだ後の片付けや身の回りの始末、水遊びの着替えなど、必要に応じて自分なりに取り組めるように援助し、できた喜びや自信がもてるようにしていく。